

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年5月31日現在

### 今月の重点活動

#### ■ 指導農業士連絡協議会 西南濃支部の総会を開催

5月12日、大垣フォーラムホテルにおいて、指導農業士連絡協議会西南濃支部の第44回総会が開催された。総会には会員他16名が出席し、事業報告や事業計画等について協議され、全ての議案が承認された。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5月8日より5類感染症となったことを受け、令和5年度は昨年よりも活発な活動を行うことや、新たな会員募集を関係機関と連携し取り組むこととした。

農林事務所は、経営安定、担い手育成、地域農業の活性化に向け、今年度も指導農業士の活動を支援していく。



【指導農業士西南濃支部】

### 安全で身近な「西濃の食」づくり

#### ■ 小麦 令和5年産小麦現地検討会の開催

西濃地域は県内有数の小麦産地となっており、約2,000ha生産されている。5月16日に、JAにしみの主催により、西濃管内の関係者100名以上が一堂に集い、3年振りとなる「令和5年度小麦現地検討会」が行われた。

室内検討では、農林事務所からは今年度の小麦の生育状況について説明を行い、赤かび防除対策や適期収穫について情報提供した。また、現地検討会では、近年課題となっている地力低下の対策として有効と考えられる緑肥試験の概要について情報提供を行った。

農林事務所では、今後とも小麦の高品質・高収量生産について支援していく。



【現地説明の様子】

#### ■ 有機農業 西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議の開催

4月27日、JAにしみの神戸集出荷センターにて、「みどりの食料システム戦略」推進の一環として取り組んでいる、有機農業推進プロジェクトチームの令和5年度第1回会議を開催した。会議には、営農モデル実証ほ(水菜)生産者・JAにしみの営農担当・神戸町役場・県農産園芸課・農林事務所が出席し、今年度の実証ほの試験内容や有機農産物の有利販売に向けた取り組みなどについて話し合った。

実証ほにおいては、化学農薬を使用しない防除手段による害虫(アザミウマ等)の抑制、太陽熱消毒による雑草抑制の試験を行うこととし、収穫物(水菜)の食味に関わる成分分析にも取り組むこととした。

生産者からは有機をアピールした販売(慣行栽培との差別化)をしていきたい意向もあることから、県農業フェスティバルへの出店など、機会を捉えて有機水菜のPRを進めていく方向となった。

農林事務所としては、県農政の重要施策である有機農業推進について、農業者の経営にプラスになる手法を模索しつつ、支援を継続していく。



【プロジェクトチーム会議の様子】

## 西濃の農畜水産物のブランド展開

### ■甘長ピーマン 海津甘長ピーマン部会の目揃会が開催される

5月19日に、海津甘長ピーマン部会の目揃会がJAにしみの海津中支店で開催され、出荷基準の確認が行われた。

農林事務所からは、今後発生が見込まれる病害虫の対策、これまでに一部の購入苗で見られた生理障害、土壌の塩類集積対策などに関する情報提供を行った。

今年は、定植時に苗の状態が悪かった生産者で出荷開始時期が例年よりも遅れたが、5月以降は生育が回復しており、出荷量も順調に増加している。

今後は、病害虫被害が増加しやすい時期となり、暑さで生理障害も発生しやすくなるため、農林事務所では、引き続き定期的な巡回指導を実施し、栽培を支援していく。



【目揃会の様子】

### ■カキ カキ摘らい講習会開催

5月7日に南濃柿部会・養老果樹振興会が、南濃町・養老町それぞれのモデルほ場で摘らい講習会を開催した。

摘らいは、開花前の蕾を適正な数に減らすことによって、大きなカキを作るための大切な作業である。

農林事務所からは、生育状況、病害虫防除に関する情報提供を行うとともに、摘らい方法についての説明及び摘らいの実演を行った。その後、参加者はグループに分かれ、モデル園で摘らい実習を行った。

今年は、春先から高温傾向であったことから生育が進み、開花時期が平年より1週間早くなることから、早めに作業を進めることとした。

なお、両生産団体ともに、7月には摘果講習会が予定され、摘らい・摘果の徹底により秋には大きなカキが収穫できる見込みである。



【摘らい講習会の様子】

### ■メロン 定植作業終了と栽培研究会の開催

海津メロンは、キュウリやトマト生産者により、後作として生産され初夏の贈答品にも利用されている地域のブランド農産物となっている。

海津メロンの定植が5月上旬から始まっており、今のところコナジラミの発生は少ないものの、近年メロン栽培においても微小害虫によるウイルス病の発生が懸念されている。

農林事務所では、栽培研究会に向けて、JAにしみの担当者とはほ場を巡回し、病害虫発生状況及び生育調査を行なった。

また、5月26日の栽培研究会では、調査結果とともに天敵や耕種的防除等を組み合わせた総合的防除について情報提供を行った。今後も品質の高いメロン生産に向け支援をしていく。



【定植後の様子】